

田辺市景観まちづくり刷新支援事業 評価委員会

2026/02/10 田辺市役所

目次

1. 景観まちづくり刷新支援事業の事後評価について
2. 費用対効果の算定基礎となった要因
3. 事業の効果の発現状況
4. 事業実施による環境の変化
5. 社会経済情勢の変化
6. 今後の事後評価の必要性
7. 改善措置の必要性
8. 同種事業の計画・調査のあり方や評価手法の見直しの必要性
9. まとめ

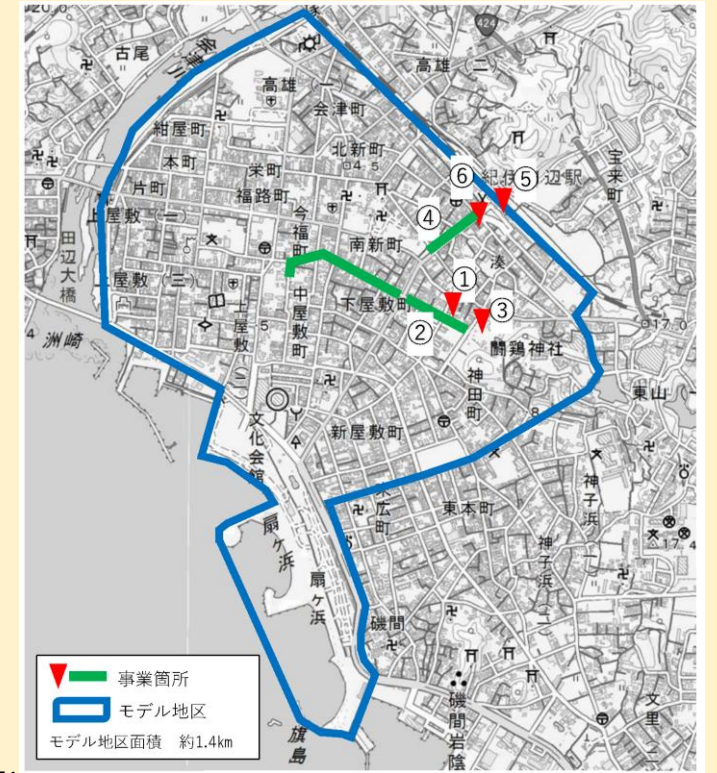
参考: 市民アンケート・観光客等アンケートの抜粋

景観まちづくり刷新支援事業の目的について

目的：鬪雞神社周辺やJR紀伊田辺駅前地区を含む市街地の地域を対象地域に指定し、観光客（外国人を含む）などの交流人口を増加させ、個性的で活力のあるまちづくりを進めていくことを目的とし、中心市街地の景観資源を活かしたまちづくりを推進してきました。

【経緯】

| | |
|---------|--------------------------|
| 平成29年3月 | 景観まちづくり刷新モデル地区 に指定 |
| 平成30年3月 | 街なかポケットパーク整備事業 完成 |
| 令和元年3月 | JR紀伊田辺駅舎改修外観修景整備事業 完成 |
| 令和2年3月 | 鬪雞神社参道及び宮路通り他の舗装美装化事業 完成 |
| 令和2年5月 | 「大福院」の保存修理事業 完成 |
| 令和2年6月 | 田辺駅前商店街外観修景整備事業 完成 |
| 令和2年7月 | 市街地活性化施設整備事業 完成 |
| 令和8年3月 | 景観まちづくり刷新支援事業 事後評価 |



モデル地区及び事業の概要について

①街なかポケットパーク整備事業

- ・熊野古道や鬪雞神社等の案内
- ・休憩施設(トイレ、待合室等)
- ・イベント拠点(ウォークイベント、ギャラリー等)



【事業前】



【事業後】

【波及効果】

- 観光案内所及び街歩きの拠点施設として活用
- 事業の満足度 10.1%→51.9% 過半数以上が満足

②鬪雞神社参道及び宮路通り他の舗装美装化事業

- ・舗装の美装化(周遊ルート、街歩きのモデルコース)



【事業前】



【事業後】

【波及効果】

- 令和6年度鬪雞神社の来訪者数 約20万人
- 事業の満足度 16.9%→53.7% 過半数以上が満足

モデル地区及び事業の概要について

③「大福院」の保存修理事業

- ・大福院の修理・復元
- ・景観重要建造物に指定



【事業前】



【事業後】

【波及効果】

- 令和6年度鬮雞神社の来訪者数 約20万人
- 事業の満足度 9.5%→37.7% 満足度が改善

④田辺駅前商店街外観修景整備事業

- ・外観の修景(夜間ライトアップ等)
- ・イベント開催による集客力の向上



【事業前】



【事業後】

【波及効果】

- 商店等の新規開業により、地域活性化に寄与
- 事業の満足度 13.5%→55.6% 過半数以上が満足

モデル地区及び事業の概要について

⑤ JR紀伊田辺駅舎改修外観修景整備事業

- ・外観修景整備



【事業前】



【事業後】



【波及効果】

- 待合室において、多くの利用者でにぎわいがあふれる
- 事業の満足度 18.1%→63.6% 過半数以上が満足

⑥ 市街地活性化施設整備事業

- ・来訪者の休憩スペース
- ・交流拠点の場(コワーキングスペース等)
- ・南紀みらい(株)の事務所(まちづくり会社)
- ・イベント開催等による地域活性化



【事業前】



【事業後】



【波及効果】

- 令和2～6年度の来訪者数 約5～9万人/年
- 事業の満足度 9.5%→49.1% 約半数が満足

1. 景観まちづくり刷新支援事業の事後評価について

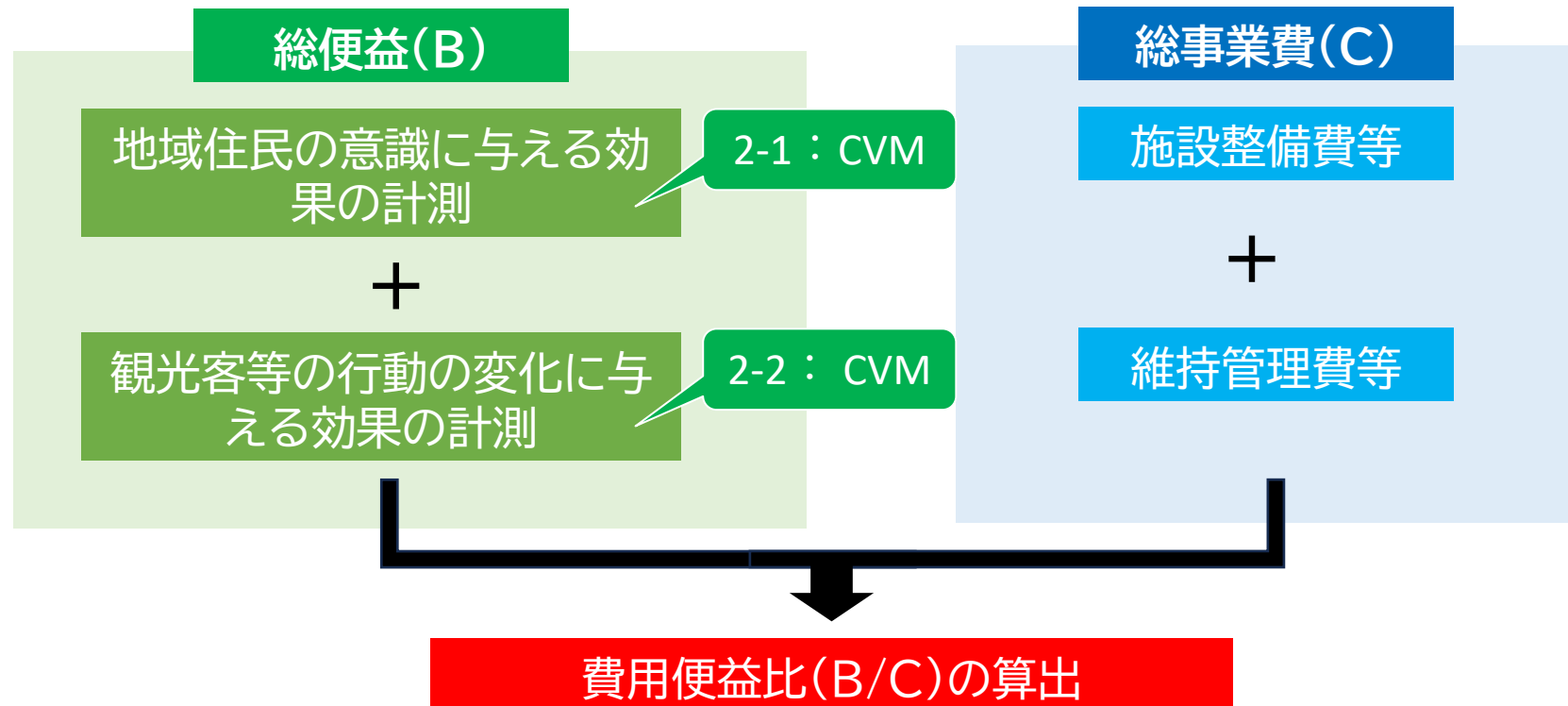
事後評価は、「景観まちづくり刷新支援事業事後評価項目・内容」(国土交通省)に基づき、費用対効果分析や日常生活・居住環境の変化への影響について確認しました。

| 評価の項目 | 評価の内容 |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 費用対効果の算定基礎となった要因の変化 | 費用対効果分析を実施し、事業の効果が認められることを確認 |
| 事業の効果の発現状況 | 景観の刷新性、地域活性化の状況等について確認 |
| 事業実施による環境の変化 | 事業実施による周辺環境への影響、住民意識の変化について確認 |
| 社会経済情勢の変化 | 社会経済状況の変化が事業に及ぼした影響等について確認 |
| 今後の事後評価の必要性 | 今後も事後評価が必要となる場合は、その時期や方法について確認 |
| 改善措置の必要性 | 改善措置が必要となる場合は、その内容について確認 |
| 同種事業の計画・調査の在り方や評価手法の見直しの必要性 | 他地区の事業計画等に反映できる事項がある場合は、その内容を示す |

2.費用対効果の算定基礎となった要因

【費用対効果分析について】

- ・費用対効果分析(B/C)とは、事業全体の総便益(B)と総事業費(C)を比較して効果があるのか検証します。
- ・市民アンケートの「地域住民の意識に与える効果(便益)」と観光客等アンケートの「観光客等の行動の変化に与える効果(便益)」を計測し、合計値を算出します。



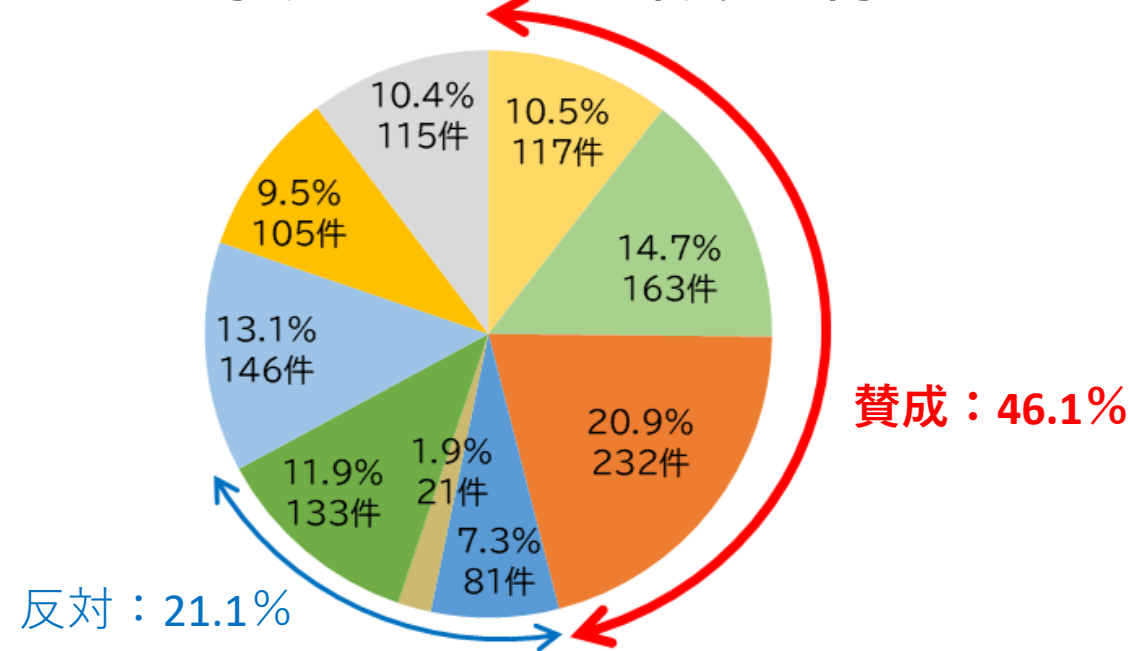
2-1.仮想的市場評価法(CVM)について

仮想的市場評価法(CVM)とは、市場で金銭取引されていない価値について、人々に支払い意志額等を確認し、外部経済の価値を直接的に評価する手法です。

■ 市民アンケートの概要

| 項目 | 概要 |
|------|--|
| 調査対象 | 田辺市民4,000世帯(無作為抽出) |
| 調査日 | 令和7年11月4日～21日 (最終回収:12/5日) |
| 調査方法 | 郵送による配布・回収 |
| 調査項目 | <ul style="list-style-type: none"> ・支払い意志額とその理由 ・事業前後の満足度 ・周辺環境における事業実施前後の満足度 |
| 回収状況 | 回収数1143票(回収率:28.6%) |

■ 景観まちづくりへの市民の意向



- 近代的なまちなみを維持してほしい
- 歴史とにぎわいが調和した商店街を維持
- 歴史と文化が調和した落ち着いた景観の維持
- 景観維持は賛成だが、負担金を支払う価値はない
- 景観まちづくり事業による景観維持の必要性を感じない
- 負担金を集める仕組みに反対である
- これだけの情報では判断できない
- その他
- 無回答

2-1. 仮想的市場評価法(CVM)について

【ステップ1】世帯当たりの支払い意志額の推計

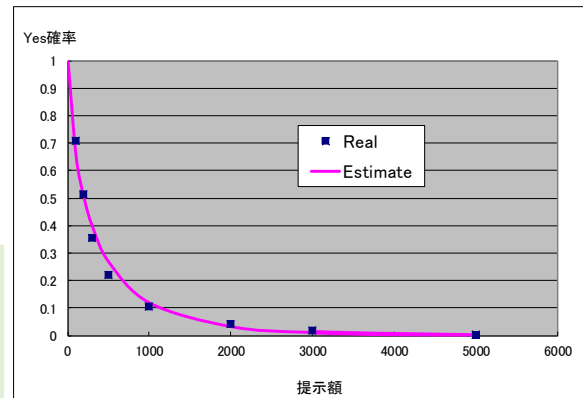
市民アンケートの支払い意志額と賛成率の関係を示す賛成率曲線を推計し、世帯当たりの支払い意志額を算出します。

推定結果

| 変数 | 係数 | t値 | p値 |
|----------|------------|---------|-----------|
| Location | 5.8174 | 389.192 | 0.000 *** |
| Scale | 1.4415 | 86.585 | 0.000 *** |
| n | 42624 | | |
| 対数尤度 | -11072.451 | | |

推定WTP

| | |
|-------|----------------------------|
| (中央値) | 198 |
| (平均値) | 429 裾切りなし 448 最大提示額で裾切り |



支払い意志額
1世帯当たり448円/月

【ステップ2】受益者数の設定

市全体のブランド化を高める事業であり、全市民が受益者と考えられることから、受益者数は自然地の世帯数とします。

総世帯数 34,741世帯
(2025年10月時点の住民基本台帳)

【ステップ3】年間便益額の計測

年間便益額 =
1世帯当たりの支払い意志額 × 総世帯数 × 12か月

448円/月 × 34741世帯 × 12か月
= 186,767,616円

年間便益額 約1.87億円/年

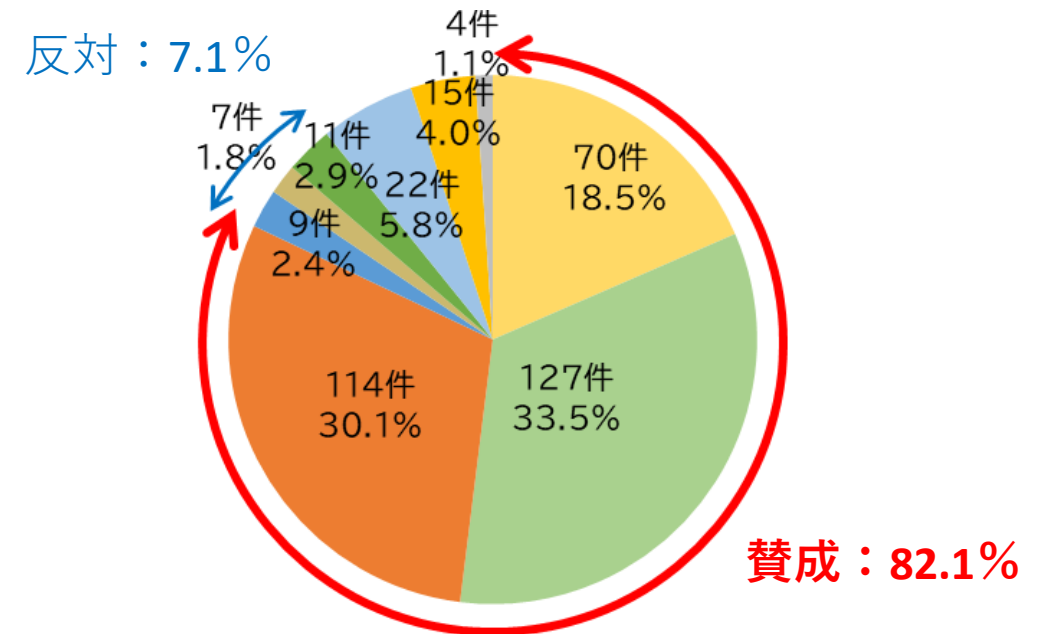
■ 観光客等アンケートの実施について

観光客等アンケートを実施し、観光客等の行動の変化に与える効果の計測をおこないました。

■ 観光客等アンケートの概要

| 項目 | 概要 |
|------|---|
| 調査対象 | 田辺市観光センター等の訪問者 |
| 調査日 | 令和7年11月7日～9日、15・16日 |
| 調査方法 | 調査員による聞き取り調査 |
| 調査項目 | <ul style="list-style-type: none"> ・5年間の訪問回数の変化 (事業未実施・事業実施の場合) ・交通手段、移動時間、交通費等 ・支払い意志額とその理由 |
| 回収状況 | 回収数400票 |

■ 景観まちづくりへの観光客等の意向



- 近代的なまちなみを維持してほしい
- 歴史とにぎわいが調和した商店街を維持
- 歴史と文化が調和した落ち着いた景観の維持
- 景観維持は賛成だが、負担金を支払う価値はない
- 景観まちづくり事業による景観維持の必要性を感じない
- 負担金を集める仕組みに反対である
- これだけの情報では判断できない
- その他

2-2.仮想的市場評価法(CVM)について

【ステップ1】一人当たりの支払い意志額の推計

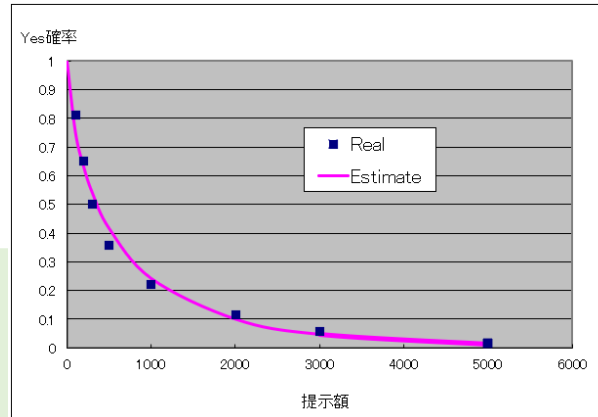
観光客アンケートの支払い意志額と賛成率の関係を示す賛成率曲線を推計し、1人当たりの支払い意志額を算出します。

推定結果

| 変数 | 係数 | t値 | p値 |
|----------|-----------|---------|-----------|
| Location | 6.4063 | 317.227 | 0.000 *** |
| Scale | 1.4360 | 59.574 | 0.000 *** |
| n | 18552 | | |
| 対数尤度 | -5712.935 | | |

推定WTP

| | |
|-------|---------------|
| (中央値) | 358 |
| (平均値) | 770 裾切りなし |
| | 783 最大提示額で裾切り |



支払い意志額
1人当たり783円/回

【ステップ2】受益者数の設定

旧田辺市を訪れる令和2年から令和6年までの平均観光客のうち、対象エリアを訪れる観光客割合を計上します。

旧田辺市の平均訪問者数 693,062人
対象地の訪問割合 57.4%
(市資料)

【ステップ3】年間便益額の計測

年間便益額 =
1人当たりの支払い意志額 ×
平均訪問者数 × 対象地の訪問割合

783円/回 × 693,042人 × 57.4%
= 311,247,198円

年間便益額 約3.11億円/年

2-3. 単年度当たりの便益について

【単年度当たりの便益について】

単年度当たりの景観まちづくり刷新支援事業の便益として、次のとおりとなりました。

地域住民の意識に
与える効果の計測
(CVM)

約1.87億円/年

+

観光客等の行動の
変化に与える
効果の計測
(CVM)

3.11億円/年

=

単年度当たり便益
合計

約4.98億円

2-4.施設整備費等について

【施設整備費】

施設整備費は、約11.2億円となりました。

維持管理費は、2018年の①⑥の維持管理費等を参考として、
 $2200\text{万円} \times 1.2 (\text{建築デフレ}) = 2640\text{万円}$ となりました。

総事業費は、約11.5億円となりました。

| 景観まちづくり刷新支援事業名 | 施設整備費 |
|------------------------|----------------|
| ①街なかポケットパーク整備事業 | 98,800,120円 |
| ②鬮雞神社参道及び宮路通り他の舗装美装化事業 | 109,775,420円 |
| ③「大福院」の保存修理事業 | 67,152,800円 |
| ④田辺駅前商店街外観修景整備事業 | 493,101,094円 |
| ⑤JR紀伊田辺駅舎改修外観修景整備事業 | 54,427,118円 |
| ⑥市街地活性化施設整備事業 | 300,365,557円 |
| 合計(①+②+③+④+⑤+⑥) | 1,123,622,109円 |

2-5.事業完了後の費用便益分析の結果

【費用便益分析の計算】

単年度の総便益:4.98億円と景観まちづくり事業の総費用:11.5億円（維持管理費2600万円/年）を計算すると、費用対効果分析の結果、事業完了後の総便益(B)は、約249億円、総費用(C)は、約24.67億円となります。それを現在価値化すると…

$$B = \sum_{t=1}^n \{b_t / (1+i)^{t-t_0}\}$$

$$C = \sum_{t=1}^n \{c_t / (1+i)^{t-t_0}\}$$

B：総便益（ t_0 年価値）

C：総費用（ t_0 年価値）

b_t ： t 年次の便益

c_t ： t 年次の費用

t ：年次

t_0 ：計算実施年次

i ：社会的割引率（4%）

n ：評価対象期間

t年後の現在価値を示す割引率

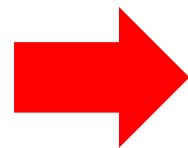
■ 費用対効果分析の計算

合計の便益

事業費用+維持管理費の合計

| | |
|----------|------|
| 費用便益比 | 5.8 |
| 純現在価値 | 86.2 |
| 経済的内部収益率 | 43% |
| 社会的割引率 | 4% |

| 便益B(百万円) | | 費用C(百万円) | | 純便益(B-C)(百万円) | |
|----------|---------|----------|---------|---------------|---------|
| 単純合計 | 現在価値化 | 単純合計 | 現在価値化 | 単純合計 | 現在価値化 |
| 24900 | 10397.9 | 2467.4 | 1782.14 | 22432.6 | 8615.76 |



| 年次 | 供用後 | 便益B(百万円) | | 費用C(百万円) | | 純便益(B-C)(百万円) | |
|------|-----|----------|-------|----------|---------|---------------|---------|
| | | 単純便益 | 現在価値化 | 単純便益 | 現在価値化 | 単純便益 | 現在価値化 |
| 2018 | | | | 120.8 | 125.632 | -120.8 | -125.63 |
| 2019 | | | | 76.4 | 79.456 | -76.4 | -79.456 |
| 2020 | 1 | 498 | 478.1 | 996.2 | 1036.05 | -498.2 | -557.95 |
| 2021 | 2 | 498 | 459 | 26 | 25 | 472 | 434 |
| 2022 | 3 | 498 | 440.6 | 26 | 24 | 472 | 416.6 |
| 2023 | 4 | 498 | 423 | 26 | 23 | 472 | 400 |
| | | 498 | 406.1 | 26 | 22.1 | 472 | 384 |
| | | 498 | 389.9 | 26 | 21.2 | 472 | 368.8 |
| | | 498 | 374.3 | 26 | 20.4 | 472 | 353.9 |
| | | 498 | 359.3 | 26 | 19.6 | 472 | 339.7 |
| | | 498 | 344.9 | 26 | 18.8 | 472 | 326.1 |
| 2029 | 10 | 498 | 331.1 | 26 | 18 | 472 | 312.1 |
| 2030 | 11 | 498 | 317.9 | 26 | 17.3 | 472 | 300.6 |

経過年数等により価値が減少

経過年数等により価値が減少

2-5.事業完了後の費用便益分析の結果

【費用便益分析の結果】

社会的割引率を踏まえた景観まちづくり刷新支援事業の現在価値化を行うと、事業完了後の総便益(B)は、約104億円、総費用(C)は、17.8億円となり、費用便益比(B/C)は5.8となったことから、投資を**上回る結果**が期待できることが明らかとなりました。

■ 費用対効果分析結果

| 項目 | 内容 |
|------------|---------------|
| 評価対象期間 | 平成30年度～令和50年度 |
| 評価基準年 | 令和7年 |
| 社会的割引率 | 4.0% |
| 総便益(B) | 10,397.9(百万円) |
| 総費用(C) | 1,782.14(百万円) |
| 費用便益比(B/C) | 5.8 |
| 純現在価値(B-C) | 8,615.76(百万円) |
| 経済的内部収益率 | 43% |

| | |
|----------|---------|
| 費用便益比 | 5.8 |
| 純現在価値 | 86.2 億円 |
| 経済的内部収益率 | 43% |
| 社会的割引率 | 4% |

| 便益B(百万円) | | 費用C(百万円) | | 純便益(B-C)(百万円) | |
|----------|---------|----------|---------|---------------|---------|
| 単純合計 | 現在価値化 | 単純合計 | 現在価値化 | 単純合計 | 現在価値化 |
| 24906 | 10397.9 | 2467.4 | 1782.14 | 22432.6 | 8615.76 |

| 年次 | 供用後 | 便益B(百万円) | | 費用C(百万円) | | 純便益(B-C)(百万円) | |
|------|-----|----------|-------|----------|---------|---------------|---------|
| | | 単純便益 | 現在価値化 | 単純便益 | 現在価値化 | 単純便益 | 現在価値化 |
| 2018 | | | | 120.8 | 125.632 | -120.8 | -125.63 |
| 2019 | | | | 76.4 | 79.456 | -76.4 | -79.456 |
| 2020 | 1 | 498 | 478.1 | 996.2 | 1036.05 | -498.2 | -557.95 |
| 2021 | 2 | 498 | 459 | 26 | 25 | 472 | 434 |
| 2022 | 3 | 498 | 440.6 | 26 | 24 | 472 | 416.6 |
| 2023 | 4 | 498 | 423 | 26 | 23 | 472 | 400 |
| 2024 | 5 | 498 | 406.1 | 26 | 22.1 | 472 | 384 |
| 2025 | 6 | 498 | 389.9 | 26 | 21.2 | 472 | 368.7 |
| 2026 | 7 | 498 | 374.3 | 26 | 20.4 | 472 | 353.9 |
| 2027 | 8 | 498 | 359.3 | 26 | 19.6 | 472 | 339.7 |
| 2028 | 9 | 498 | 344.9 | 26 | 18.8 | 472 | 326.1 |
| 2029 | 10 | 498 | 331.1 | 26 | 18 | 472 | 313.1 |
| 2030 | 11 | 498 | 317.9 | 26 | 17.3 | 472 | 300.6 |

2.費用対効果の算定基礎となった要因

【要因について】

地域住民・観光客の双方の支払い意志額が上昇し、単年度当たりの便益が上昇しました。特に、観光客の支払い意志額は、円安等の影響もあり上昇したと推察されます。

【事業実施前】

地域住民のCVM
約1000円
×35000世帯
=
約3500万円/年

観光客のCVM
約280円
×31万人
=
約8800万円/年

単年度当たり便益
合計

約1.2億円

【事業実施後】

地域住民のCVM
約5400円
×34500世帯
=
約1.87億円/年

観光客のCVM
約780円
×40万人
=
約3.11億円/年

単年度当たり便益
合計

約4.98億円

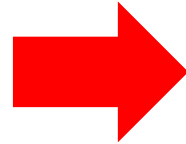
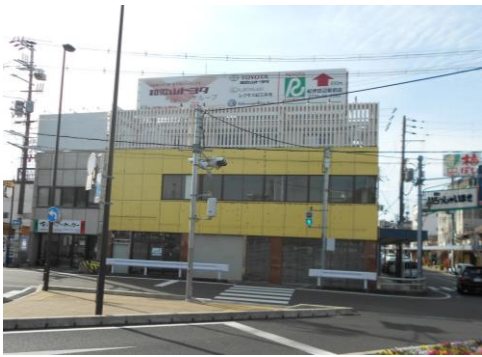
3.事業の効果の発現状況

【景観の刷新性】

事業の従前・従後において、景観の変化が生じていたかについて確認しました。

○街なかの景観や歴史的な景観の修景等により、景観の質と街の魅力が向上しました。

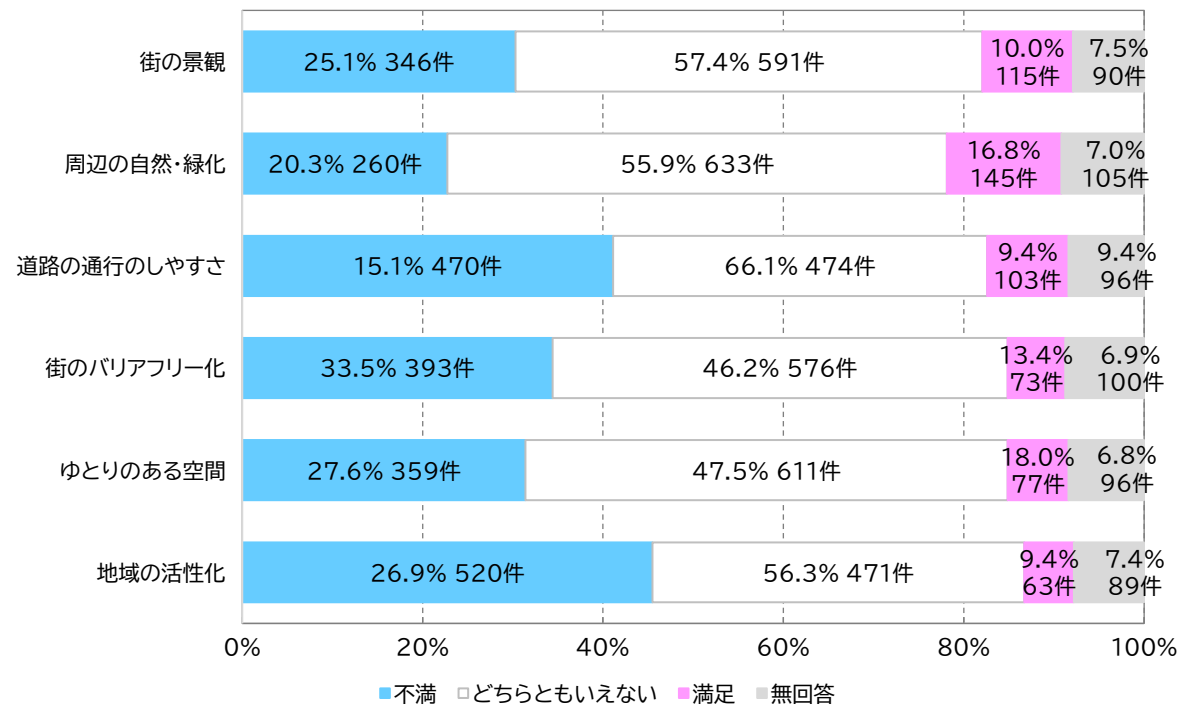
○観光客アンケートの際には、TANABE EN+への観光客の滞留が形成されました。



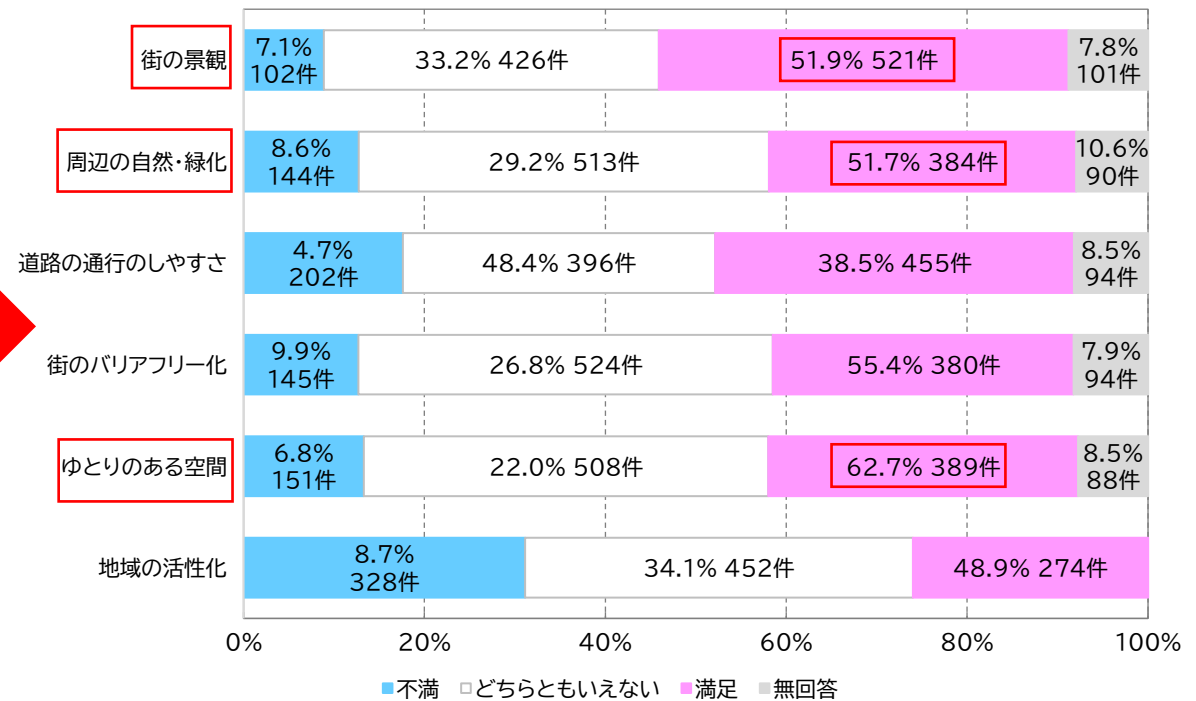
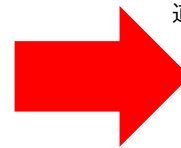
3.事業の効果の発現状況

【景観の刷新性】

- 歩行者や観光客等にやさしく、利便性の高い空間としてJR紀伊田辺駅に待合室が形成されました。
- モデル地区内において、街の景観、周辺の自然・緑化、ゆとりのある空間の項目の過半数以上が満足されています。



【事業前の満足度】



【事業後の満足度】

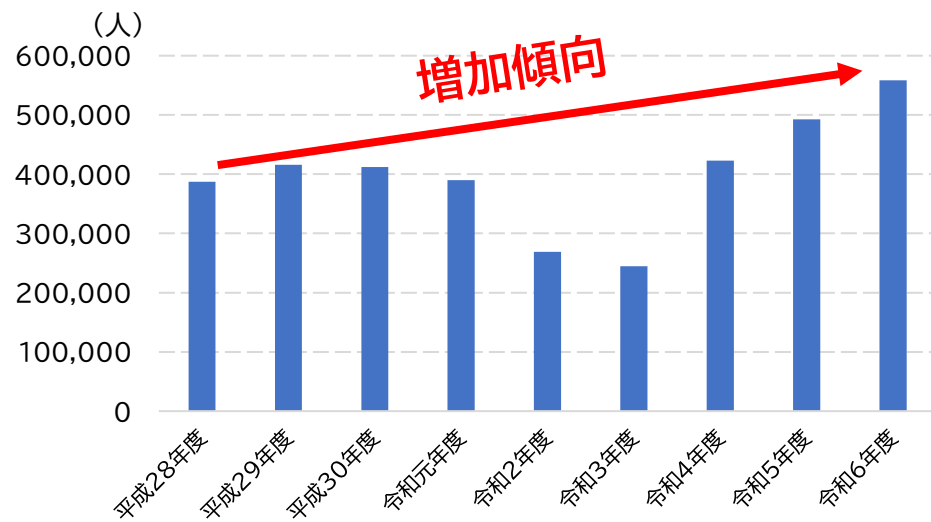
3.事業の効果の発現状況

【地域の活性化】

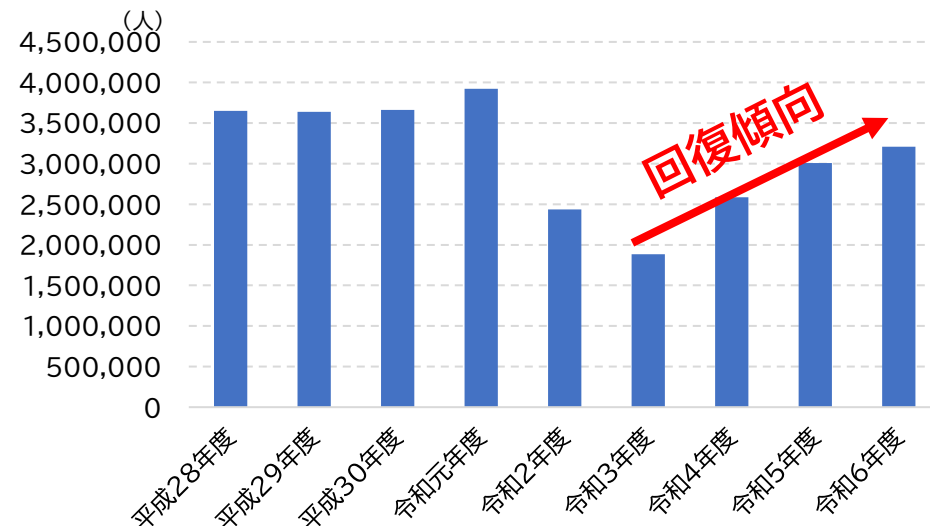
観光入込客数の増加又は市民活動やイベントの活性化等の街のにぎわいの創出に関する達成状況について確認を行いました。

○モデル地区一帯の延べ来場者数は増加傾向にあります。

| 項目 | 平成28年 | 令和6年 |
|------------------|------------|------------------|
| 関連施設・周辺施設の延べ来場者数 | 387,224人 | 558,710(+44%) |
| 市内全域観光入込客数 | 3,650,588人 | 3,208,026人(-12%) |



関連施設・周辺施設の延べ来場者数



市内観光入込客数の推移

出典:和歌山県の観光客動態、市資料

3.事業の効果の発現状況

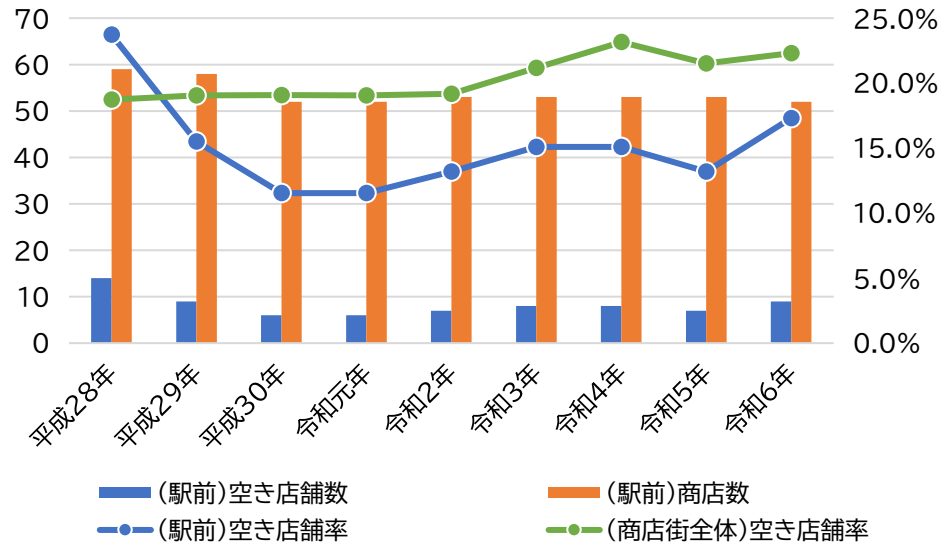
【地域の活性化】

観光入込客数の増加又は市民活動やイベントの活性化等の街のにぎわいの創出に関する変化について確認を行いました。

○駅前空き店舗は減少傾向にあり、商店街全体の空き店舗率を下回りました。

○モデル地区内でのイベント開催の充実等により、街のにぎわいが創出されました。

| 項目 | 平成28年 | 令和5年 |
|----------|-------|-------|
| 空き店舗率の推移 | 23.7% | 17.3% |



商店街の空き店舗率の推移

出典:市資料



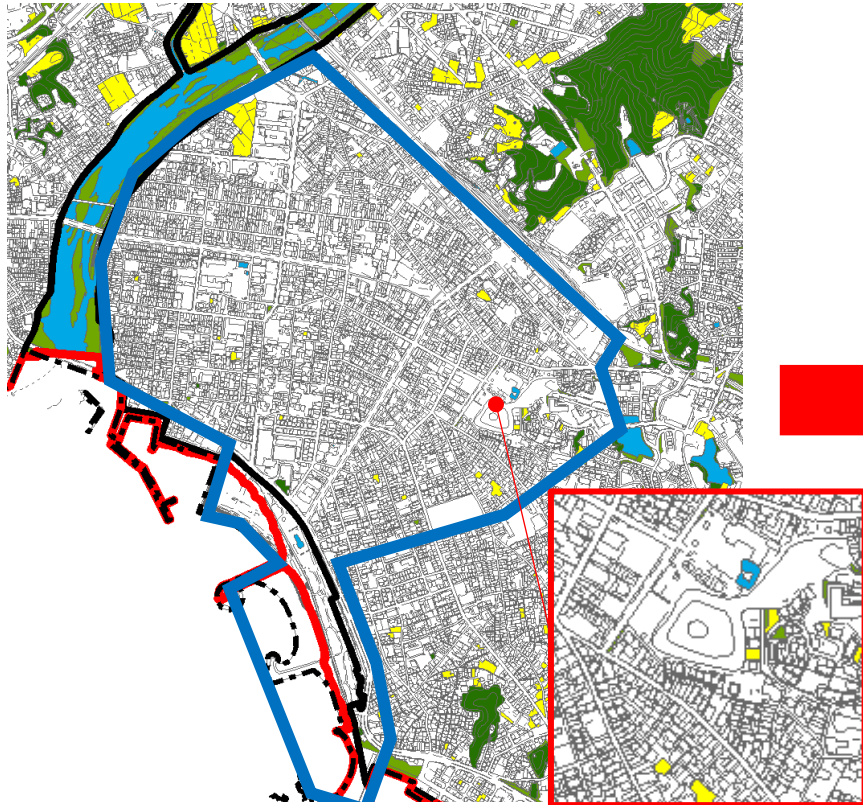
イベント開催の様子

4.事業実施による環境の変化

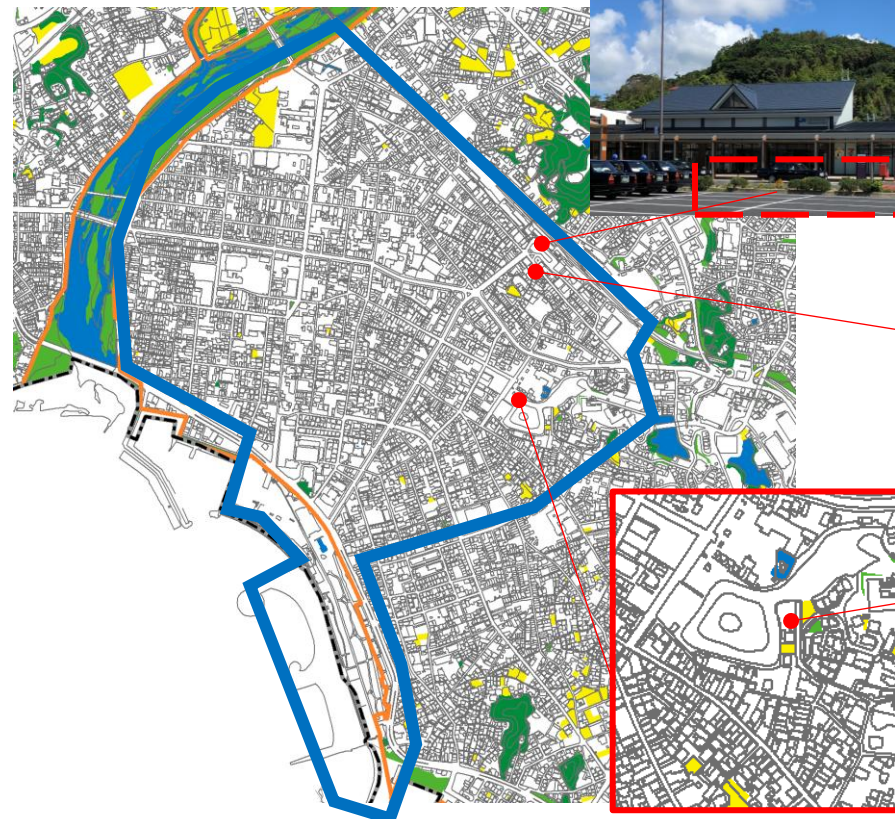
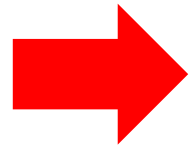
【自然環境に対する影響】

事業の実施による影響について確認しました。

○整備前と同様の緑地空間を維持(整備に伴う自然環境への影響なし)しました。



【整備前 平成28年の緑の状況】



【整備後 令和2年の緑の状況】



駅前花壇の維持



TANABE EN+の植栽



闘雞神社の緑地保全



出典:市資料

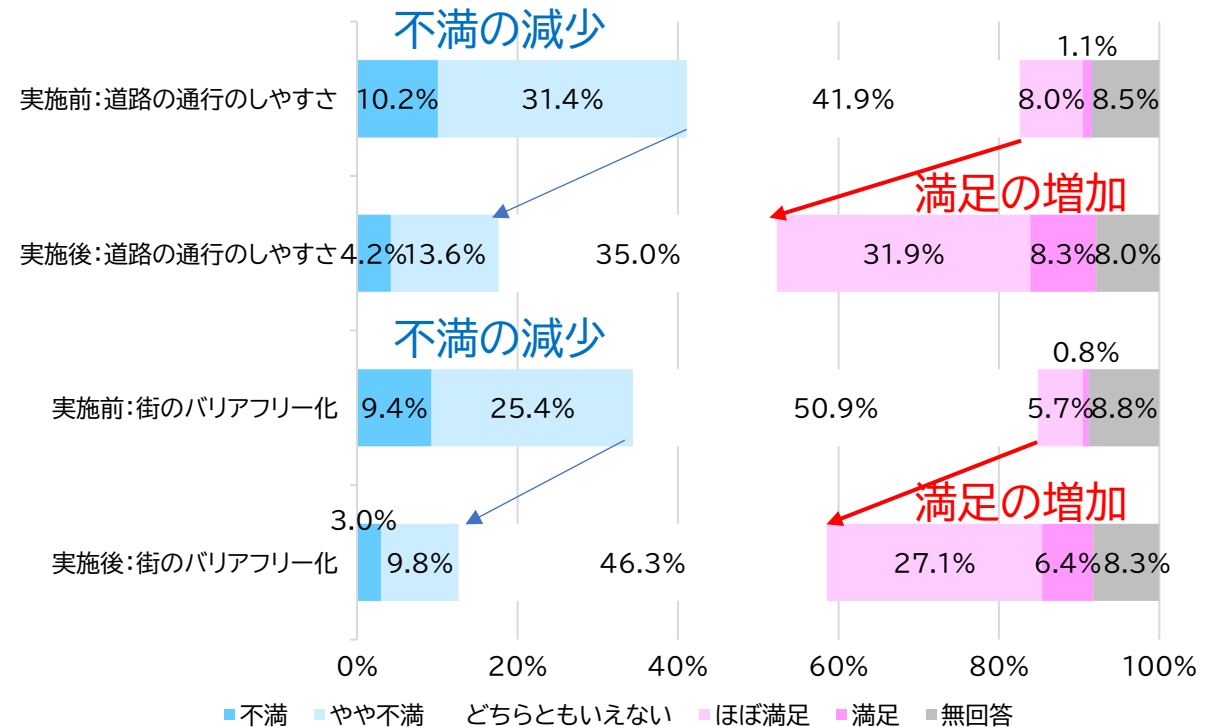
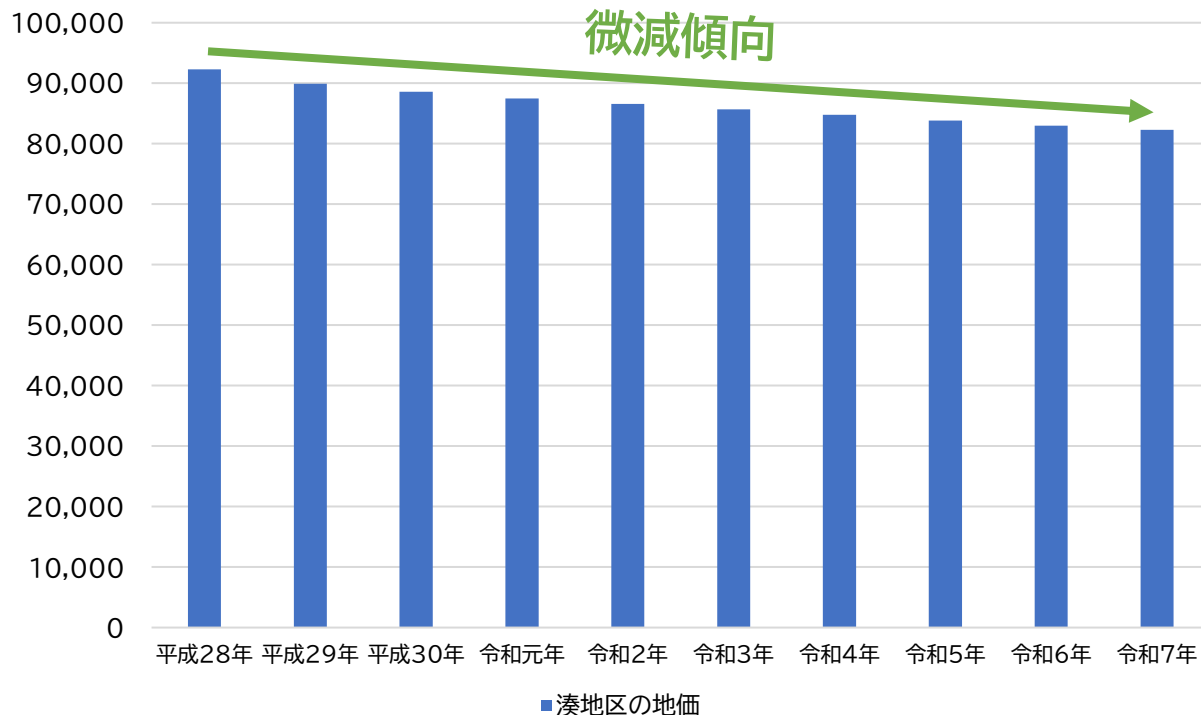
4.事業実施による環境の変化

【生活・居住環境等への影響】

地価の推移について確認しました。

○駅前の湊地区の地価は微減傾向となっています。

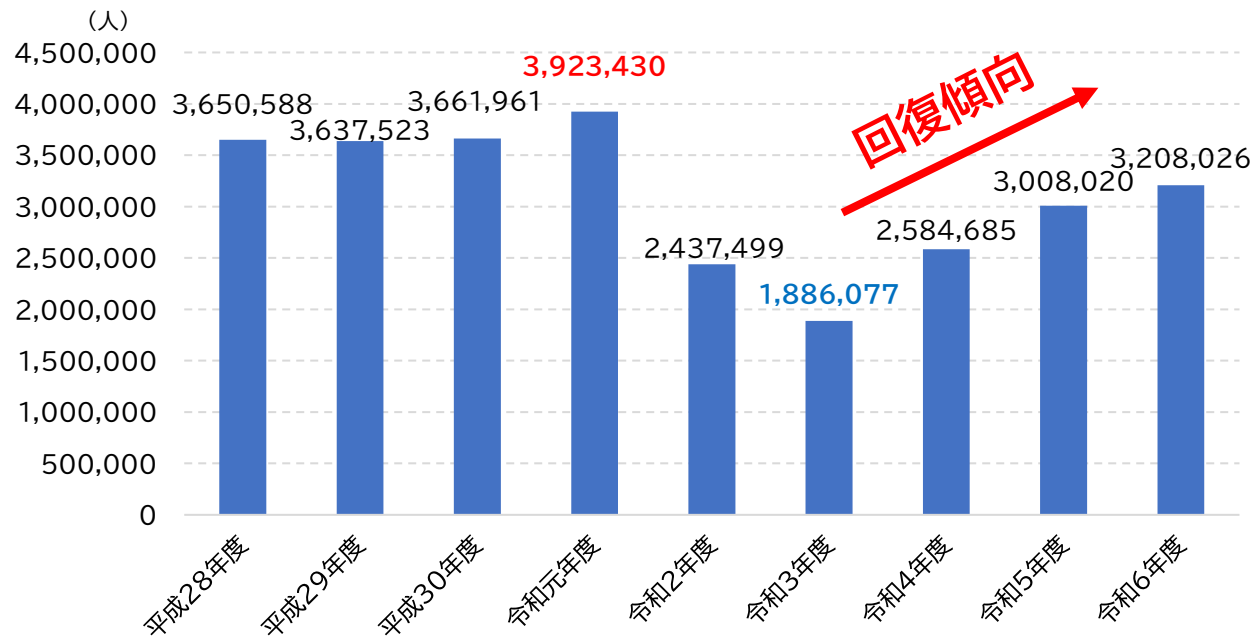
○商店街や駅舎のバリアフリー化によって、市民の意識が改善されました。



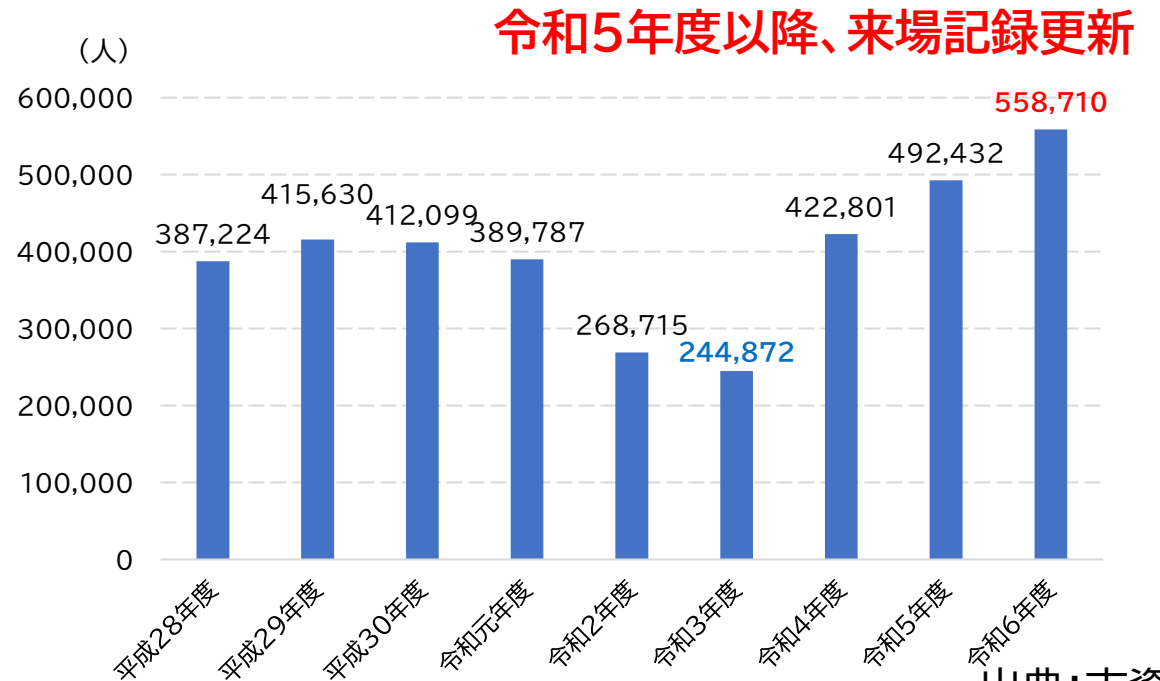
5. 社会経済情勢の変化

【社会経済状況の変化】

- ・新型コロナウイルス感染拡大により、国内外への観光動向に大きな影響が及ぼされ、モデル地区への観光にも大きな影響がありました。
- ・令和3年以降、旅客移動や訪日外国人数は回復傾向にあります。



市内観光入込客数の推移



関連・周辺施設の来場者数の推移

出典：市資料

5. 社会経済情勢の変化

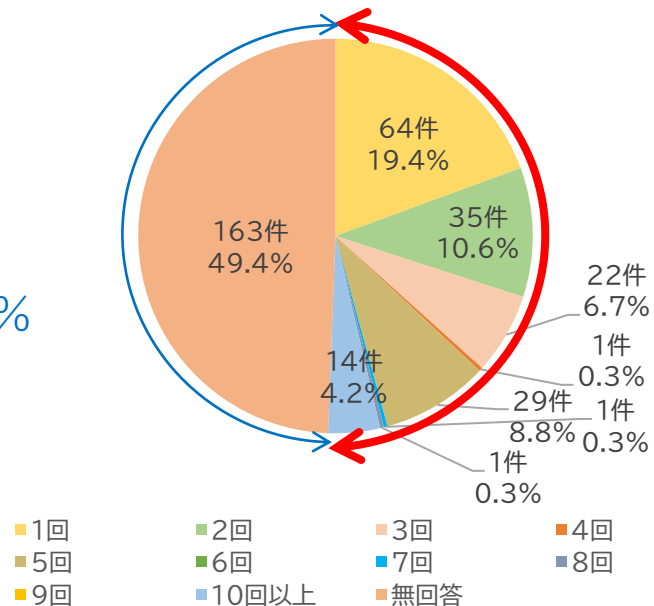
【関連計画、関連事業の状況の変化】

・関連計画、関連事業は、概ね計画通りに遂行されており、関連事業の状況の変化が本事業に及ぼした影響はないと考えます。

【事業環境等の変化】

・観光客等アンケート結果から、実際に訪れた方からもう一度来たいと再訪の意欲を示す人が多く、事業の必要性はあるものと考えられます。

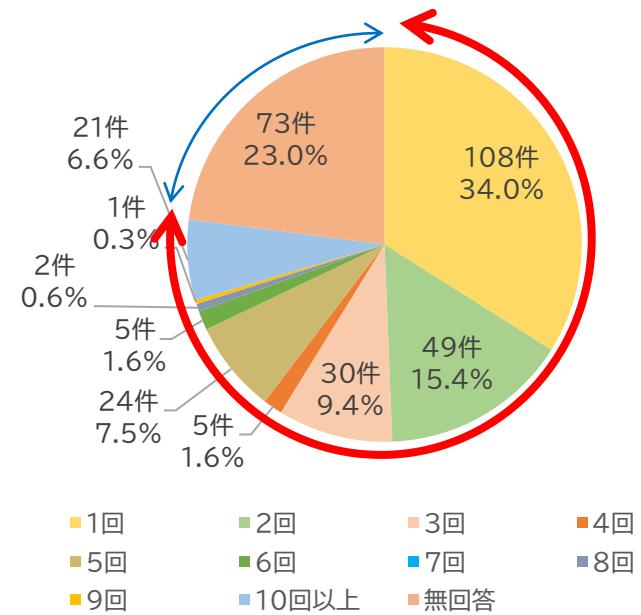
再訪の意欲
無し：49.4%



【事業実施前の訪問回数】

再訪の意志
あり：50.6%

再訪の意欲
無し：23.0%



【事業実施後の訪問回数】

再訪の意志
あり：77.0%

6. 今後の事後評価の必要性

【事後評価の必要性】

1～4の結果を踏まえ、今後の事後評価の必要性について検討した結果を示します。

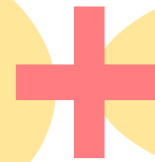
○事業の投資効果が十分であることが認められ、アンケートの回答者(市民及び観光客)の事業に対する賛同や満足度の向上が見受けられたことより、一定の事業効果が得られたと判断できます。

○新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、観光客が減少しましたが、令和3年度以降、田辺市の観光需要は回復傾向であることから、改めての事後評価の必要性はないと考えます。

景観まちづくり事業
賛同多数



事業等に関する満足度の向上



再訪意志の割合上昇



一定の
事業効果
あり

7.改善措置の必要性

【改善措置の必要性】

改善措置の必要性について検討した結果を示します。

- 多くの観光客及び市民から支持を得ており、本事業に対する新たな課題は特に生じていないことから、改善措置は不要と考えられます。
- しかし、現地での観光客等アンケート実施の際、田辺市に対する意見をいただいたため、それらの意見を踏まえ、鬮雞神社周辺やJR紀伊田辺駅前地区を含む市街地の活性化を今後も継続していくことが重要であると考えます。

■ 市民・観光客等アンケート調査の際に寄せられた景観以外の意見

- ・商店街の店舗が少ない
- ・案内表示の多言語化を推進すべき
- ・市民が利用できる商店が少ない
- ・ふるさと納税やCF等を活用して地域活性化
- ・観光客向けのお土産店等が少ない
- ・電線の地中化を進めたほうが良い
- ・狭あい道路の解消、道路白線等の整備
- ・南海トラフ等に備えた防災の整備等が必要

8.同種事業の計画・調査のあり方や評価手法の見直しの必要性

【同種事業の計画・調査のあり方や評価手法の見直しの必要性】

同種事業の計画・調査のあり方や評価手法の見直しの必要性について見直すべき内容を示します。

- 同種事業の計画・調査のあり方について、他地区の事業計画に反映する事項は特にありません。
- 事業手法の見直しの必要性は特にありません。

9.まとめ

【田辺市景観まちづくり刷新支援事業 事後評価のまとめ】

平成29年度～令和2年度の5年間にかけて景観まちづくり刷新支援事業を実施し、その事後評価の取りまとめを行いました。

| 評価の項目 | 評価の内容 | 評価結果 |
|-----------------------------|---------------------------------|------------------|
| 費用対効果の算定基礎となった要因の変化 | 費用対効果分析を実施し、事業の効果が認められることを確認 | 効果あり |
| 事業の効果の発現状況 | 景観の刷新性、地域活性化の状況等について確認 | 効果あり |
| 事業実施による環境の変化 | 事業実施による周辺環境への影響、住民意識の変化について確認 | 効果あり |
| 社会経済情勢の変化 | 社会経済状況の変化が事業に及ぼした影響等について確認 | 影響なし※1 (一部あり) |
| 今後の事後評価の必要性 | 今後も事後評価が必要となる場合は、その時期や方法について確認 | 必要なし |
| 改善措置の必要性 | 改善措置が必要となる場合は、その内容について確認 | 必要なし |
| 同種事業の計画・調査のあり方や評価手法の見直しの必要性 | 他地区の事業計画等に反映できる事項がある場合は、その内容を示す | 必要なし |

※1…新型コロナウイルス感染症拡大と外出自粛の影響により、観光客が一時期著しく減少しました。

9.まとめ

【費用対効果分析】

事業完了後の総便益(B)は約104億円、総費用(C)は約17.8億円、費用便益比(B/C)は**5.8**となり、**事業効果として投資を上回る結果**となりました。

| | |
|------------|------------|
| 総便益(B) | 約104億円 |
| 総費用(C) | 約17.8億円 |
| 費用便益比(B/C) | 5.8 |

投資を
上回る結果

市民や観光客より賛同を得ており、美しくにぎわいのある景観へと刷新が行われたことで、モデル地区の魅力が向上し、地域活性化や県・市の観光振興にも寄与していることを確認しました。

参考：市民アンケート・観光客等アンケートの抜粋

自然・歴史・景観の保全や継承

- ・太平洋に沈む夕日が美しいため、保全してほしい(市民)

にぎわい創出・地域活性化

- ・最盛期と比較すると、商店が少なく、活気に欠ける(市民)
- ・観光客向けの土産物店が少ないと感じる(観光客)
- ・外国人観光客のコンビニ利用だけでなく、地元の飲食店利用が広がればよい(市民・観光客等)

情報発信・PR

- ・観光センターも近く、情報発信もあると感じる(市民・観光客等)

交通・アクセスの確保

- ・市民の足として、バス等の交通アクセスは維持してほしい(市民)
- ・熊野古道へのアクセスバスは維持してほしい(観光客)